

令和 2 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立岩美高等学校

校長 山 中 洋 介

評 価 日	令和 3 年 2 月 1 5 日 (月)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 当初評価案 提言後 ①進路実現 B ②部活動の振興 B ③基本的生活習慣の定着 B ④豊かな人間関係づくり C ⑤基礎学力の向上 C → B ⑥学習指導の改善 C → B ⑦教育環境の改善 C ⑧岩美町との効果的な連携 C → B ⑨授業・部活動等を通じた地域連携の実施 . . . B ・離職率の視点でデータを捉えている点が良い。キャリア教育の推進になっている。 ・岩美高校の魅力づくりに必要なのは学力向上である。外の力(岩美町)を活用するなど、町の支援も仰ぎ岩美高校の良さを地域に発信したい。 (2) 説明・公表について 学校の取組状況は、学校評価アンケートの結果をもとに評価されており、学校関係者評価委員に適正に説明されている。 2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について ○裁量予算は、学校の魅力化を図る取り組みとして生徒学習力向上の対策に力を入れて欲しい。中学生にとって高校の魅力は学習力向上が大きい。学力を上げるための支援を岩美町を巻き込んでしていただきたい。地域の方々に岩美町チャンネルなどを活用して岩美高校の良さを発信して欲しい。 ○小学生にとって高校生との交流は楽しみにしている行事であり有意義なものなので継続して欲しい。 3. 取組改善のための提言 ○学習指導の改善や教育環境の改善について、教員アンケートの評価が低い。目標に向けた取り組みが弱く改善意欲が足りないことことの表れとも考えられる。今後の改善に期待したい。 ○ICT活用について中学校は1人一台Chromebookを活用して学習している。小学校は昨年12月に1人一台導入済みである。小中で活用した生徒が高校に入学してくる現状を考え、授業内容を組み立てる必要がある。現状では生徒の学力についての検証はできていないが、ICT活用に向きに取り組むことで教員の力量アップとコミュニケーション能力の育成に役立っている。 ○中学生は新型コロナウイルス感染症対策のため、横の交流も縦の交流も実施できていない。以前の生徒と比べて交流経験が少ないため、人間関係の構築や自己肯定感の伸長などに影響が出ることが想像される。そのことを考慮して教育活動の検討が必要である。		○当初自己評価案は、5項目を「C」としていたが、達成状況等を見る限り厳しすぎるという指摘を受け、3項目は「B」に変更することとした。 ○基礎学力向上の重点校として本校の体制を確立し魅力ある学校運営を行い生徒募集につなげたい。 ○地元中学校は岩美高校の就職率100%という情報をもとに高校卒業後就職を考えている生徒が岩美高校を受検するが、進学希望者は外に出ようとする傾向にあるとのこと。地元中学校の進学希望者の目が本校に向くような取組、実績作りを心がける。 ○イワツツミッションは岩美町役場および岩美町観光協会等と連携を進め地域の方々の協力のもと、予定どおり実施できた。引続き情報発信に努めたい。 ○昨年から継続事業の英語公営塾「HELLO! IWATS★」に加え、今年度は岩美町公営塾「HOPE」を実施。引続き学習意欲の向上につながる取組を実施する。 ○教職員の自己評価が高まるよう意識を喚起する。 ○新入生宿泊ガイダンス等の取組を通して生徒の特性を把握しながら指導にあたる。